

市民参画と協働を基本とした、 住んでよかったと思えるまちづくり

北茨城市について

北茨城市は、その名が示す通り茨城県の北東端に位置し、北は東北の玄関口である福島県いわき市と接しています。広大な市の総面積の約80%を山林と原野が占め、太平洋と接する東側には、約20kmにも及ぶ長い砂浜と起伏に富んだ海岸線があり、美しい景観と豊かな自然環境に恵まれた地域です。穏やかな気候に恵まれ、古くから農業や漁業を中心に栄え、江戸後期に石炭が発見されてからは、常磐炭田の中核として活況を呈し、今日では工業地帯として進展を見せています。また本市を縦断するJR常磐線、常磐自動車道、国道6号などにより、首都圏や東北各地などへのアクセスも容易になったことや、市内各地で温泉・鉱泉

が湧き出したことから、民宿・旅館が立ち並び観光の名所ともなっています。

市民協働のまちづくり

近年、本格的な少子高齢化を迎え、地方自治体が昔のような右肩上がりの行政サービスを提供していくことは難しくなり、今後はより効果的でその地域に合ったものを提供していくことが必要不可欠です。

そのような中、本年度を初年度とし今後10年間のまちづくりの指針を示した第4次北茨城市総合計画でも「市民協働」を前面に打ち出し、市民と行政が共に手を携えたまちづくりを展開していきたいと考えております。

その取り組みの一環として3年前から市民夏まつりを開催してい

ます。この祭りは「みんなであつくり

みんなでおどる みんなのまつり」をテーマに掲げ、祭りの中心となる市民踊りも若手の職員有志を中心に作り上げたもので、3回目となった本年は、多くの市民に踊りの輪に参加していただき、盛り上がりを見せました。一方この祭りは、市民の中から運営委員を募集し、イベントの企画・運営や前日のステージ設営、さらには後片付けまで参加していただいております。市民手作りの祭りを目指しています。まだまだ職員中心の運営ですが、将来的にはどのシーンにも市民が参画していただけるものと思っております。こうしたことが市民と行政の距離を縮め、祭りに関することだけでなく市民との会話の



北茨城の冬を代表する味覚の「あんこうの吊るし切り」

中からまちづくりや行政に対する考え方がうかがえ、市民協働によるまちづくり、ひいては地域活性化につながっていくものと考えています。

未来ある若者のために

わが国の経済は今なお厳しい状況が続く、特に地方は都市部と比べ数段階しさを増しています。中でも雇用問題は特に深刻で、今年卒業予定の高校生などの就職内定率が非常に悪く、このままでは市内の高校においても就職できないまま卒業を余儀なくされてしまう生徒が多数出てしまいそうな状況

となっていました。未来ある若者の就職先がない、働きたいのに働けないといった彼らの状況を何とかできないかという思いから、就職未定の卒業生を中心とした雇用対策をほかに先駆けて展開することとしました。この事業は重点分野雇用創造事業という国の交付金を活用し、雇用者の人件費を1年間市が全額負担することにより、

新卒者を中心とした失業者を事業所に有期雇用していただくもので

す。今回この事業には市内の19事業所に協力いただき、この4月から約45名の雇用を創出しているところとあります。最終的には本人次第となりますが、多くの事業所では継続雇用を視野に入れて事業展開を図っていただいていることから、将来的な雇用にも結び付くものと考えています。

現在の政府の動きでは、平成23年度も本事業が継続される見通しではあります。今後の経済・雇用情勢が好転しない限りは、市独自の予算でもこの事業を継続し、若者の未来に希望を与えていかなければならないと考えています。

市立総合病院の再生

すべての市民が健康で安心して暮らすためには、総合的な健康・医療・福祉の充実を図る必要があります。本市においてその大きな役割を担うのが市立総合病院です。しかし、当病院では現在地方の中小公立病院が抱える問題と同様に、医師不足による診療科目の減少や、それに伴う患者数の減によって、経営的には大変厳しい状況が続いています。また、当病院は施設の老朽化や耐震性の問題などが



北茨城市長 豊田 稔



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

変わろう！ 高田！ 将来に向け、持続可能な行財政基盤の確立を

まちの歴史、そして今

大和で綿の栽培が一段と盛んになった江戸時代、専立寺を中心とした寺内町が形成された大和高田には、練綿問屋が軒を連ねていました。日本中と取引を行い、「和州綿」の名を全国にとどろかせました。その後、綿栽培に代わり、紡糸、製織部門が活性化し、紡績工場ができ、中和地域の経済、文化、交通の中心地として栄えました。その後、昭和23年市制が敷かれました。

昭和40年ごろからは、大阪への通勤圏として宅地化が進みました。4km四方の市域に、鉄道の駅が6つあり、市の北部を中和幹線が、市の中央部を南阪奈道路につながる国道24号線が通っていて、交通の便がよいことが、住みやすさの大きなポイントなのでしょう。今後、南部には、

京奈和自動車道が通る予定です。

ところで、本年奈良県では、県下全域を会場とし、「平城遷都1300年祭」が行われています。本市では、5月に「地域の伝統行事と役行者」をテーマに講演会、6月には音楽絵巻「新・役小角伝説」、7月には「奥田の蓮取り行事」や、吉野山の「蛙とび行事」を見学する「蓮のみちバスツアー」を開催しました。7月7日に行われる「奥田の蓮取り行事」は、吉野山金峯山寺蔵王堂の蓮華会に供える蓮華を取る行事です。室町時代の記録にも残る伝統行事です。

またこの夏、スポーツの分野では、「第81回都市対抗野球大会」に、社会人野球クラブチームの「大和高田クラブ」が初出場し、市民に大きな元気を与えてくれました。小学生では、「ディアプロッサ高田FC」が、

赤字の解消と経常収支比率の改善を目指し、「財政健全化プログラム」を策定しました。

効率化を図りながらも、質の高い行政サービス

近年の情報通信技術などの進歩と市民ニーズの多様化の中、より質の高い行政サービスの展開に向け、「IT推進中期計画」を策定しました。平成24年施行予定の住民基本台帳法改正に則し、住民情報システムのオープン化への取り組みを始めました。

また、本年4月に奈良県下初めての「幼保連携型の認定子ども園」として、「高田子ども園」が開園しました。本市の幼稚園と保育所が、長い歴史の中で培ってきた教育・保育の充実に加え、お互いの特徴を生かした教育・保育・子育て支援を総合的に提供しています。延長保育のほか、子育てについての相談や、一時預かりなどの子育て支援事業の機能も持っています。

今後も、少子化や家庭・地域を取り巻く環境の変化に伴う子育ての多様化に対応し、子育てを支援する環境づくりの一つとして、認定子ども園の整備を進めます。



本年4月に開園した「高田子ども園」

第34回全日本少年サッカー大会で準優勝。バドミントンの第11回全国小学生ABC大会(3、4年生女子の部)では、水井ひらり選手が準優勝という、立派な成績を残しました。今年の本市は、本当に暑くて暑い夏になりました。

将来に向けた行政基盤を確立するために

私は市長就任後、数次の「行財政改革大綱」の下、財政の健全化に取り組んできました。平成18年3月に、構造的な赤字体質からの脱却と単年度収支の均衡を図ることを目的とする「大和高田市集中改革プラン」を策定しました。その決意を、「変わろう！ 高田！」というスローガンに表し、4月には、市民の協力を得て、指定ごみ袋による家庭ごみの収集が始まりました。ごみ分別と減

最後に

私は、これまで「住むによし、あきないによし」や、「元気な高田、誇れる高田」「変わろう！ 高田！」などの言葉を掲げ、市政運営に携わってきました。まだまだ厳しい社会経済情勢です

プロフィール

- ◆ 面積 16・49km²
- ◆ 人口 7万1010人
- ◆ 世帯数 2万9028世帯

- 〔将来都市像〕 元気な高田 誇れる高田
- 〔まちの特徴〕
 - ・ 昭和38年8月、オーストラリア・リスモア市と姉妹都市提携する。
 - ・ 日本とオーストラリアの姉妹都市提携第1号。
 - ・ 戦後すぐ、高田川畔2kmに市民によって植えられた桜並木は、見事。
 - ・ 昭和28年10月、市民病院開院(現高田市立病院 13科 320床)
 - ・ 昭和29年4月、市立高田商業高校開校(商業科 定員各学年200)



大和高田市長 吉田誠克



- 〔名〕 昭和43年4月、附属准看護婦養成所開設(現市立看護専門学校)
- 〔特産品〕 大和高田市特産野菜(ネギ、コマツナ、ホウレンソウ、キクナ、シロナ)
- 〔観光〕 石園坐多久豆玉神社、高田天神社、大春日神社、専立寺、築山古墳(築山公園)
- 〔イベント〕 高田千本桜、奥田の蓮取り行事(伝統行事)、高田おかげ祭り、やまとたかだ元気ウイーク

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



奥田の蓮取り行事

わが

世界の人人々から「一度は訪れたい」と言われるまちを目指して

はじめに

芦屋市は、兵庫県の南東部、大阪と神戸のほぼ中間に位置し、東西約2.5km、南北約9.6kmと南北に細長いまちで、北に六甲の山並み、南に瀬戸内の海を望む、起伏に富んだ地形となっています。

本市の魅力は、便利な交通環境と気候温和で豊かな自然環境が調



市役所前広場

和した風光明媚な「国際文化住宅都市」であることです。第2次世界大戦で甚大な被害を受けた本市の再建に当たり、芦屋市が将来とも高度な文化住宅都市としての特色を発揮していくため、昭和26年3月、住民投票による市民の同意を得て、地方自治特別法として「芦屋国際文化住宅都市建設法」を公布し、国際性と文化性あふれる住宅都市の形成という目標を明らかにしました。この法律の理念を基調とし、個性豊かで都市的魅力にあふれた住宅都市を建設することを目標に、まちづくりを進めてきました。

市制施行70周年

本年は、市制施行70年を迎えます。明治22年に芦屋村・三条村・津知村・打出村が合併して「精道村」が誕生しました。その後の交通機

関の発達によって、大阪・神戸の郊外として優れた立地と環境が注目されるようになり、別荘地・住宅地化が始まりました。昭和初期には、広壮邸宅地としての「六麓荘」開発が行われ、「高級住宅地芦屋」のイメージを定着させました。また、この時期に、「阪神間モダンズム」と呼ばれる、ハイカラでモダンな独自の生活スタイルが築かれていきました。このころの先進的で洗練された生活スタイルこそが、今日の基盤となったと考えられています。

こうして、神戸・大阪の近郊住宅地として目覚ましい成長を遂げることになり、昭和15年11月に、全国で173番目の市として精道村から芦屋市へと飛躍しました。その後、市内各地で大規模な宅地開発と都市基盤の整備が進めら



芦屋川のさくらと六甲の山並み

れ、日本でも有数の住宅都市に発展していきましたが、平成7年1月17日早暁、阪神・淡路地区を襲った直下型大地震は、わずか10数秒のうちに多くの市民の生命と財産を奪い、営々として築いてきた豊かな国際文化住宅都市芦屋に壊滅的な被害を及ぼしました。

り「快適で安全・安心なまちづくり」に市民と行政が「丸」となって取り組んできました。復旧・復興事業などのために発行した市債の償還は、一時のピークは過ぎたものの、依然として本市の財政を圧迫し、厳しい財政運営が続いていますが、本市の特性を生かした「知性と気品に輝く活力ある国際文化住宅都市」として、さらに質の高いまちづくりを目指しているところです。

より良い住環境の創出・維持を目指して

平成16年度に「芦屋庭園都市宣言



民間マリナー施設と住宅街

言」を市議会で議決し、花と緑いっぱいのみちづくりを進めるとともに、平成19年度には、「清潔で安全・快適な生活環境の確保に関する条例」(通称「市民マナー条例」)を制定し、市内全域での歩行喫煙の禁止や、午後9時から午前6時までの夜間花火を禁止するなど、美しく清潔で快適な生活環境を確保する取り組みにも努めています。平成21年度は、本市の優れた景観を継承し、緑豊かな美しいまちを育成するため、全国で初めて市全域を景観法で定める「景観地区」に指定しました。今後も、本市の特性を生かしながら、常により良い住環境を創出・維持する取り組みを進めてまいります。

また、「国際文化住宅都市芦屋」の新たな展開として、南芦屋浜地区(潮芦屋)の開発も進めています。民間マリナーを核に、ウォーターフロントを生かした住宅・商業・文化・海洋性レクリエーションなど、高質な住環境と多様な都市活動や機能空間が複合した多様性のあるまちとして、新しい芦屋の顔ともいえるべき施設が次々と整備されています。

現在、本市では、平成23年度か

らスタートする「第4次芦屋市総合計画」の策定に取り組んでいるところですが、地方行政から地域主権への時代の変化に対応しながら、これからのまちづくりを進めていくためには、市民一人一人が「このまちをつくっていく」という意識を高め、市民と市民、市民と行政が連携したまちづくりを推進することが不可欠であると考えています。

市民一人一人がまちを大切にする心や芦屋で暮らすことへの誇りを持ち、まちの魅力をさらに高めるために考え、行動することが、芦屋への愛着をはぐくみ、さらなる魅力と活力をもたらします。従来から住まれている方はもちろんのこと、新たに住まわれる方にも「このまちに住んで良かった」と思っていただけのようなまちづくりに努めるとともに、世界中の人々からも「一度は訪れたい」と言われる美しいまちを目指してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 18.57km²
- ◆ 人口 9万5627人
- ◆ 世帯数 4万3215世帯

【将来都市像】自然とみどりの中で絆を育み、新しい暮らし文化を創造・発信するまち

【まちの特徴】北は六甲の山並み、南は大阪湾に面し、東西約2.5km、南北約9.6kmと南北に細長いまちで、



芦屋市長 山中 健



【観光】緑豊かな町並み、海と融合した町並み
【イベント】さくらまつり、サマーカーニバル、秋まつり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

ジョン万次郎ピリットでまちを活性化 ふるさととの再生を図る

はじめに

四国西南端に位置する本市「土佐清水市」は、昭和29年9月1日に四町合併により市制を敷き、以来56年の歳月を経て、今日では人口1万6500人と激減し、合併時3万2000人の勢いを失っています。全国の過疎地の経過に似て、第1次産業を中心とする本市ですが、漁業と観光を中心に据えて活性化を図っています。



足摺岬にあるジョン万次郎の銅像

ジョン万次郎の偉業をたたえ
ふるさと発展に努力

今、NHK大河ドラマで「龍馬伝」が放映されていますが、この龍馬に大きな影響を与えているといわれるジョン万次郎こと中浜万次郎は、本市出身の先人です。この龍馬ブームに乗せてジョン万次郎(ジョン万)を本年は特に集中的にPRして、市の情報発信の柱にしています。観光対策はもちろん、漁業振興をはじめ地域の活性化につなげていきたいと思っています。

14歳の少年が約170年前に土佐市宇佐港より出漁し、遭難して鳥島に上陸、そして143日目にアメリカの捕鯨船、ジョン・ハウランド号に救われ、ホイットフィールド船長に温かい保護と深い愛情で育てられ、アメリカ本土

での教育を通じて、たくましい青年に育ちました。そして母国愛と母恋しさから11年振りに帰国、江戸幕府の鎖国の取り締まり厳しい状況から沖繩に上陸、そして厳しい詮議が続き、やがて時代の要請もあつて幕府の直参を命ぜられるまでになりました。

そして江戸末期の幕府通訳の仕事をする傍ら、造船、航海、測量、捕鯨などの指導、さらに咸臨丸で事実上の船長となって訪米し、福沢諭吉などとともに「日米修好通商条約」の批准書の取り交わしのため、使節団の役割を見事に果たしたのであります。

このような体験により、後の東京大学になる開成学校の教授になり、日本の江戸から明治期の若者に大きな文明開化の影響を与えました。龍馬もその中の一人であり、



「土佐の清水さば」として、ほかのさばと差別化しブランド化

岩崎弥太郎なども続きます。

まさに、日米交流の架け橋であり、近代日本の夜明けの礎でもあります。このような歴史を持ちながら、表に出ることなく時代は流れ、今日たたいま「龍馬伝」などで、その偉大な功績が見直されてきました。

私たちは、市民一丸となって、この人物の偉業をたたえ、引き継ぎ、これからのふるさと発展に努力したいと思っています。それは、①どんなに苦しくても、決してあきらめない希望

- ②何事にも挑戦する勇氣
- ③自分の可能性を、最大限試す努力
- ④日米友好の第一人者たる指導力などです。

今、本市は暗く厳しい地域経済の中でもがきつつ、踏ん張っていますが、このジョン万スピリットで市民一丸となって、危機を突破して、ふるさととの再生を図りたいと考えています。

四国西南地方の観光の中心

具体的な重点施策としては、



わが国でも最大級の灯台の一つ「足摺岬灯台」

- ①第三セクターによる企業での雇用創出
- ②漁業、特に「清水さば」をまちおこしの起爆点
- ③第一次産業を包み込みつつ、観光産業で起死回生を(足摺岬で全国的に売り出しています)
- ④「目標人口2万人のまちづくり」を合言葉に秘境なるがゆえの魅力、売り出しこそポイントだと思いい、
- ⑤日本列島唯一の黒潮沿岸地として、大きく黒潮文化を大切に環太平洋という壮大な発想も抱きつつ、今後も頑張りたいと思っています。

漁業は、一本釣り漁法をかたくなに守っています。巻き網漁業の攻勢や、最近の中国、台湾、東南アジアなどの漁業活発化による資源減少の厳しい現状ですが、必死で伝統漁法を守っています。燃料高騰と漁獲量減少、漁師安の三重苦の中で何とか頑張っている状況です。

農業林業も、ほかの市町村と同様に、もちろん行っています。まちを売り出す特産は観光です。四国西南地方の観光の中心地だとの自負で対応し、海中公園の第1

プロフィール

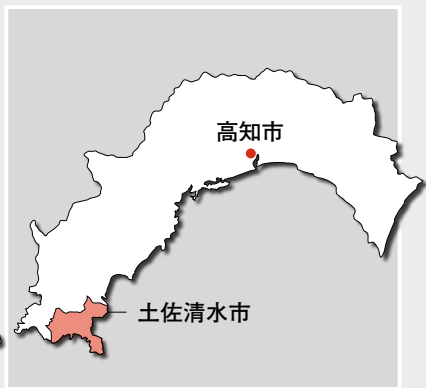
- ◆面積 266・54km²
- ◆人口 1万6544人
- ◆世帯数 8119世帯

〔将来都市像〕「愛と自然に満ちた活力あるまち」

〔まちの特徴〕人情温かく、漁業(さかなのまち)宣言、漁業・観光を中心に経済活動、特に観光は最盛期100万人、現状70万人なので入り込み数を復活する取り組みを進め、鉄道も高速道路もなく、僻地の地であるが、逆転の発想で秘境を売り込む。冬温かく、夏涼しく、魚おいしく、人情豊か、景観絶景、黒潮沿岸。小さなまちがキラリと光る珠を磨きつつ、21世紀は太平洋、黒潮文化だと思いい行動、情報発信していきます。



土佐清水市長 杉村章生



〔特産品〕清水さば、かつおのたたき、姫カツオ、宗田節(メジカ節)、芳香完熟パイン、高糖度赤玉ねぎ「足摺レッド」

〔観光〕足摺岬、足摺黒潮市場(土佐清水市さかなセンター)、ホエールウォッチング、第三十八番札所金剛福寺、白山洞門・万次郎足湯、ジョン万次郎資料館、唐人石

〔イベント〕うすばえ桜まつり、あしずり祭り(納涼花火大会、観月の宴、ジョン万祭り、鹿島神社大祭、足摺きりり、あしずり駅伝大会、鹿島神社大祭)

※面積は国土院「全国道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。